



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2024年4月10日

環境大臣 伊藤 信太郎 殿

MED Communications株式会社
代表取締役 佐々木 洋寧

MED Communications株式会社並びにグループ各社は、企業の持続的成長に向けた経営戦略として地球環境保全の取り組みを事業経営に統合し、環境問題の解決に取り組みます。

1 気候変動×生物多様性の課題解決に取り組みます。

- 企業活動に伴う温室効果ガス排出量を、2030年までに2023年実績より30%以上削減し、2050年までに実質ゼロとすることを目指すと共に、毎年6万軒以上の世帯に省エネ設備や再エネの地産地消が広く行われるよう推進し、年間1700トン以上のCO₂を削減します。
- 水環境を保つために、2030年までに合併処理浄化槽への転換を2022年比30%アップで促進し、BOD排出量を削減して河川などの水質改善に寄与します。
- 2050年ネイチャーポジティブの実現に向けて、2025年までに全国の事業所内外32拠点以上にビオトープエリアを取引先と協力してつくり緑地拡大に努め、また毎朝事業所周辺の道路清掃など美化活動や環境教育で環境意識の向上に努めることを引き続き実施して環境保全活動を推進します。
- DX化を基盤とし、当社独自の顧客管理システムの開発、取引契約や請求書、在庫管理、社内申請などペーパーレス化を実現しており、A4用紙1万枚をペーパーレス化することで13.6kgのCO₂削減につながるため、紙を使用した業務体系は見直します。

2 循環型社会の実現に取り組みます。

- 家庭ゴミとして処理されてきた使用済み浄水カートリッジを顧客から無償で回収し、新たな資源としてリサイクルできるよう引き続き99%以上の再資源化率を維持・継続します。
- “喫煙者ゼロ”をコーポレートバリューとして従業員の喫煙者率0%を達成・維持し、取引先にも推進してタバコフィルターに含まれるマイクロプラスチック製品の使用抑制や、毎年約4兆5000億個と地球上で最もポイ捨てされ汚染につながっている吸殻の環境への流出の削減と環境美化の取り組みで2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロの実現に貢献します。
- オフィス内は、ペーパーレス化や裏紙使用、ゴミは分別をして再資源化を推進し、そしてマイバッグ・マイボトル・マイ箸の使用率90%以上を継続し、プラスチック製品の使用抑制と環境への流出の削減、森林資源の保全に寄与します。
- 廃棄の機器は手作業による解体により、プラスチックや鉄、銅など、きめ細かく分別をして再資源化率90%以上を目指し、廃材の一部はリユースをして循環型社会に貢献します。

3 大気など環境への負荷低減と環境教育に取り組みます。

- 揮発性有機化合物の排出又は飛散を抑制するために、低VOC塗料を選択してVOC排出削減を推進します。
また、全ての建物の改修において、有資格者によるアスベスト含有の有無の調査を実施し、有害汚染物質の排出又は飛散を防ぎます。
社内だけではなく、社外においても労働保険事務組合ゼロ災推進協会と連携をして環境教育や有資格者の育成などのコンサルティングを行い、多くの企業と協力をして環境への負荷低減を目指します。

4 化学物質の適正な管理とリスクコミュニケーションに取り組みます。

- 毎月、外部講師を招き施工会議を開催して有害性情報なども含めた教育を引き続き実施して、自社内で訓練や危険有害業務の特別教育を6月と12月に取引先も含めて実施するなど適正に管理をします。
- 地域の住民や顧客、関わる方と定期的に有害性情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通を図り、相互理解を深めて化学物質による汚染を減らすための取り組みを推進します。
地域の方とのリスクコミュニケーションに加え、住む場所など限定されない一般の方の見学受け入れや、環境問題を含む勉強会を実施します。

5 開発途上国の水資源保全や環境汚染の改善に寄与します。

- 開発途上国の4億人は屋外排泄であり、土や地下水、川などが汚れて環境汚染が懸念されることから、全国の事業所に寄付型自動販売機の設置台数を増やしていき、その寄付により清潔な水とトイレが利用できるようにするための支援につながるので、引き続き衛生環境改善と水資源保全に寄与します。

当社は、上記取り組みの進捗状況と結果について、環境省へ報告すると共にホームページなどで定期的に公表します。



100年後の安心という約束を、届けたい。

MED Communications